

岡山ガーディアンズ(岡山県)



岡山ガーディアンズ！岡山安心夢づくり！

「地域に密着した防犯活動のあり方」～見て見ぬふりはしない～

1 はじめに

岡山ガーディアンズは、平成10年4月10日、約30人が参加して結成され、社団法人岡山県防犯協会の実働部隊として「見て見ぬふりはしない」を合い言葉に、地域社会の安全を確保するため、犯罪や事故に強い街づくりを目指し、週2回の夜間防犯パトロールと各種防犯イベントへの参加により、地域社会の安全確保に努めている。

無関心が蔓延する今日、われわれ一人ひとりが地域の安全について真剣に考え、自主防犯活動を始めることが、安全で安心して暮らせる地域社会の実現につながると考えている。

2 岡山ガーディアンズの活動規範

(1) 見て見ぬふりはしない

地域の方々、街行く人々、街かどでたむろする若者たちとも積極的にコミュニケーションを図る。

青少年に有害な環境を浄化する。

犯罪の誘因となる交通マナー違反、くわえタバコ、ポイ捨てなど小さな秩序違反やそのことに対する地域の無関心にメス。

「徳」= 彳 + 4つの心 道德心、愛情心、真心、慈悲心

- (2) 犯罪・事故の未然防止活動
- (3) 地域美化浄化活動
- (4) 救急救護活動
- (5) あいさつからできるボランティア

3 真に安全な社会の獲得に向けて（理想郷）

- (1) 争いのない平和な世の中
- (2) 調和のとれた世の中
- (3) 正直者が損をすることのない世の中
- (4) 信頼で結ばれた世の中
- (5) みんなが幸せで楽しく暮らせる世の中

4 地域に密着した安全対策

- (1) 自分たちの地域をスキャンする
 - ア 目に入る光景をスキャンする。
 - イ よく見る、よく聞く、よく動く。
 - ウ 「気づく」ことが防犯活動の第一歩。
- (2) 防犯パトロール
 - ア 不審者情報の共有
 - イ 声かけ
 - ウ 安全作法
 - 自己の安全のためにしてはならないこと、すべきことを把握したうえで警戒して行動する決まり事。
 - エ 防犯シミュレーション
 - オ 地域安全マップの作成
- (3) 継続した活動を目指して
 - ア 誰もが参加できる防犯活動を展開する。
 - イ 気楽に！気長に！危険なく！

5 地域の防犯力の向上のために

【大人の方へ】

- (1) 子どもを巻き込む犯罪の多くは未然に防げる 犯罪者にきっかけを与えない。

- (2) 地域防犯力と個人防犯力を高める。
- (3) 地域防犯力とは、人の目が隅々まで行き渡り、子どもが一人にならない環境づくり。子どもが大人へ伝えやすい環境を作る。
- (4) 地域防犯力を高めるには、防犯カメラの設置や街灯の増設など「物を使う方法」と、防犯パトロールや声かけ、あいさつ運動など「人の力を使う方法」がある。
- (5) 子ども自身が持つ五感を引き出す。
- (6) 「あなただったらどうする」と考えさせるシミュレーションを繰り返す。

【子どもの防犯力を高める方法】

- (1) 危険を察知する力をつける。
- (2) 間合いをとる。(距離をあける)
- (3) 社会のルールを守る。
- (4) 伝達能力を高める。
- (5) すぐにその場を離れる、逃げる行動ができるようにする。

万が一、車に連れ込まれたなど逃げられない状態になった場合には「あああ」の法則を思い出す。【あ】わてず、【あ】せらず、【あ】たまを使う
「最大の護身術」とは「危険を察知して近寄らないこと」、「逃げること」です！

6 終わりに

- (1) 一番大切なのは「人と人とのコミュニケーション」の活性化を図ること。
- (2) 思いやりのある人を育てていくことが本当の人づくり。
- (3) 将来にわたって安心して暮らせる地域社会の実現を願って。

岡山ガーディアンズ（岡山県）

皆さん、こんにちは。私は岡山ガーディアンズの代表をしています小池と申します。

今回、「防犯ボランティアフォーラム 2009」にて発表の機会を頂き大変うれしく思っています。

現在、岡山県では「新おかやま夢づくりプラン」が 2007 年から長期的な行動計画を推進しております。基本戦略として、

「教育と人づくりの岡山」の創造

「安心・安全の岡山」の創造

「産業と交流の岡山」の創造

これらを強力に推進し、実現を図ろうとしています。

私たち岡山ガーディアンズも「安心・安全の岡山」の創造の分野で、安全・安心まちづくりプログラムに参画しております。

岡山県内には、約 640 の自主防犯団体が結成されており、それぞれ地域に密着した活動を展開されており、地域の安全において高い評価を上げておられます。それら各団体に、私たち岡山ガーディアンズのノウハウを共有し、継続させていこうと広報活動や講演活動において結成、活動、理念を紹介したり、合同パトロールでの実施体験を展開しています。



はじめに

岡山ガーディアンズは、平成 9 年 9 月より、設立の準備会議や勉強会を開き、メンバーを募り大学生、武道団体、一般社会人など 30 名が集まり、翌 4 月 10 日に結成披露会にて誕生しました。社団法人岡山県防犯協会の実働部隊として「見て見ぬふりはしない」を合言葉に地域社会の安全を確保するため、犯罪や事故に強い街づくりを目指し、週 2 回の夜間防犯パトロールを実践し、また、各種防犯イベントに参加し、地域社会の安全確保に努めています。無関心が蔓延する今日、私たち一人一人が地域の安全について真剣に考え、自主防犯活動を始めることが、安全で安心して暮らせる地域社会の実現につながると考えます。

岡山ガーディアンズの活動規範

岡山ガーディアンズの活動規範は、合言葉としてご紹介したように、「見て見ぬふりはしない」が第 1 に挙げられます。とかく、若者たちが大勢集まっていたりすると、「怖い」「注意してキレられると何されるかわからない」と見て見ぬふりをすることが多い

と思います。それでは、社会のルールやマナーはどうすれば守られるのでしょうか。防犯パトロールに際し、地域の方々、街行く人々、また、たむろする若者たちとも積極的にコミュニケーションを図ることで、社会のルールやマナーを遵守することの大切さをひろめていくことが大切です。時間をかけてコツコツと信頼関係を築いていくことが達成への近道であり、いがみ合いからは何も解決しません。また、青少年に有害な環境を浄化すること。ゴミの後始末、ピンクビラ、違法広告物への無関心が青少年を悪い方向へ導くことにつながる可能性があります。「町の変化に敏感に気づく」そして、浄化することが求められます。秩序違反やそのことに対する地域の無関心にメスをいれることも忘れてはいけません。犯罪の誘因となる交通マナー違反、くわえタバコ、ポイ捨てなど小さな秩序違反を無関心で放置すると、「これは許されるのだな」と勝手に判断し、次への犯罪連鎖を生む要因になってしまいます。「誰かが注意する」と考えないで、いろいろな手段を使い、犯罪事故に強い地域づくりに協力していかなければ安心は得られません。私が感銘した言葉があります。「徳」という字は、「彳+4つの心」であるということです。その4つは、道徳心、愛情心、真心、慈悲心であります。私たち岡山ガー



ディアンズの行動規範をもってこいの言葉であると思っています。「ルールを守り、温かい眼をもち、誠心誠意、半分は他人の幸せを考える」そんな思いやりのある人を育てていくことが本当の人づくりであり、それが、より良い社会を築く源になるのではないのでしょうか。



第2は、犯罪・事故の未然防止活動であることの徹底です。私たち自己防犯団体は、自分たちの守備範囲の把握をしなければなりません。自分の地域に事件や事故など目立つ事象がなければ他の地域に出かけていく。俄か市民警察と勘違いしている団体の状況を耳にすることがあります。事件や事故などがなく、私たちが出動しなくても大丈夫な地域の確立こそが本当の意味での地域の安心が確保できたと喜んでいいのではな

いのでしょうか。あくまでも私たちは、地域の皆さんと協力して、事件事故の未然防止に最善を尽くすことが本来の役目と認識しなければなりません。

第3は、地域美化浄化活動です。これも「ブローケン・ウインドウズ理論」から汚れたまま放置されている地域での犯罪などの発生率が高いという結果を踏まえて、落書きやゴミの散乱の後始末など積極的に取り込む必要があります。とくに岡山は落書きがすごかったので、私たちが最初に落書き消しの活動をやりました。「なぜ消さなければならないのか」を説明してもなかなか聞き入れてもらえませんでした。「また、書かれるから」とか「ただか、やってもらえ」などつらい思いもしましたが、今では条例も制定され、それぞれの地域で「落書きは許さない」と団結して落書き消しに取り組む地域が多く育ってきています。しかし、形を変えて新たな落書きが発生していることも現実です。書かれたら消すというその姿勢、落書きは許さないぞ、という姿勢を培う必要があると思います。

第4に、救急救護活動です。火災や急病人や怪我人、泥酔者などを発見した場合は、自分なりの判断で行動するのではなく、状況を把握して、救急車の要請、警察への通報を指示しなければなりません。そのためには、各種講習会に参加し、スキルアップを図る努力が必要です。

私たちの活動は挨拶から出来るボランティアであるということの徹底です。

誰もが、参加できノウハウを共有しコミュニケーションを最大の手段として、自分たちの街は自分たちの手で守る。そうした姿勢を気負わず継続して、活動することで認知度も上がってきていますし、これからも続けていくことが岡山ガーディアンズ活動となります。

真に安全な社会獲得に向けて

私、個人的ではありますが、30年間にわたって、現在も進行中では有りますが。地域のスポーツ少年団の活動の指導をしています。

技術の指導とともに、子供たちに対して考え方・生活指導を通して安全作法や真の理想郷について指導しています。

私は、少林寺拳法を指導しておりますが、その教育システムの中に我々のような団体、防犯団体の求める理想郷に相通ずるものがあります。

「争いのない平和な世の中」

「調和のとれた世の中」

「正直者が損をすることのない世の中」

「信頼で結ばれた世の中」

「みんなが幸せで楽しく暮らせる世の中」

これらが本当に実現されたならば、安全な社会の獲得はなされると感じます。



地域に密着した安全対策

結成より 12 年間で得た防犯知識やノウハウを他の団体と共有するため、われわれも講演活動で発表させて頂いていることは、それぞれの地域に密着した防犯活動を展開することで、地域として学んだ方法やノウハウを自分たちの知識に置き換えて、何が必要か考え、地域の方々と協力体制を築き上げることが大切であります。ただわれわれがやっている活動をそのまま違う地域に持っていっても、なりたつものではありません。その地域地域で要請されていること、それにマッチすれば素晴らしい成果があげられるものと思っております。

自分たちの地域をスキャンする

まず、パトロールの方法としていつも重視しているのが、パトロールの範囲でなんです。その範囲をスキャンすること、よく見るということです。目に入る光景をスキャンすることによって変化に気づく能力を養うことが大切です。

よく見る、よく聞く、よく動く。これはスタッフの心構えとしていつも提唱しております。自分だけがしてやっていると考えずに、あえて世話をさせて頂く団体です。

そういった気持ちを持てば、腹が立つことは、そんなことはありません。ではないでしょうか。

先程も言ったとおり、気づくことが防犯活動の第一歩で、ただ漠然とパトロールして歩いていると、地域として必要とされていることは見えてきません。

変化や異変に気づくこと、そして的確に判断すること、これがわれわれ地域防犯活動に求められていることだと考えております。

防犯パトロール

防犯パトロールには、組織の結成において、それぞれの性格を持っています。各地域全体の防犯を展開するフットパトロール、児童の登下校に重点を置くスクールガードがありますが、防犯活動に必要なノウハウはほぼ同じです。



各団体が横の連携を持ち、防犯意識の向上に努めなければなりません。この場合、活動の優劣や順序などは、関係ありません。私は 2007 年の兵庫県の安心安全推進大会にて講演させていただきました。その大会で県内の優秀な防犯地域として表彰を受けた地域で、安全推進大会の後、小学生が自宅の前で殺される痛ましい事件が発生しました。まことに残念でなりません。もう少し自分たちの力がおよびと残念でなりません。

地域全体で絶対に犯罪は許さない意識の向上だけでは防止できないかもしれませんが、より多くの監視の目があれば、声掛けや弱い者を守る運動が活

発に展開されれば、きっとこの地域に住んでいてよかったと思われるそういった防犯活動が展開出来るのではないのでしょうか。

防犯パトロールには、不審者情報の共有、声掛け、安全作法が重要です。安全作法とは、自分の安全のためにしてはならないこと、すべきことを把握したうえで警戒して行動する決まりごとです。

「夜道を歩くときは下を向いて歩かない。」

「携帯電話やメールをしながら歩かない。」

「ときおり振り返って接近する人や車、自転車、バイク等との距離を測り、危険を避ける努力をする。」

「エレベーターには見知らぬ他人と一緒に乗り込まない。」

日常の動作にプラスして、安全に必要な行動をとることが重要です。

防犯シミュレーション

さまざまな犯罪発生場面を想定して、自分がとるべき行動を探ること。

学校における防犯訓練に取り入れ、警備員たちの年末強盗対策演習など、いざという時のために本番さながらの模擬訓練を行こと。こうした防犯シミュレーションが重要です。突然の事態に誰しもが対応にとまどいますが、予行演習として実際に近い状況を設定してその場でなすべきことを見極めることが重要です。

個人においても、頭の中で場面を想定しておくだけでも、現実の場面ですみやかな行動をとりやすくなります。

地域安全マップの作成

作って与えるのではなく、地域の子どもからお年寄りまでみんなで作成する、コミュニケーションを図りながら作成する過程こそが大切なのです。

子どもと一緒にかくれんぼをして、子どもが一番かくれるところ、そこが一番入りやすく見づらいくところ。そういったことをやはり子どもなりに知っておりますので、子どもの五感を引き出すそういうようなことを、していくべき必要があると思います。

継続した活動

またこういった継続した活動を、目指していかなければなりません。

結成はしたものの、1年で終わってしまったとか、2年で終わってしまったとか少し年を取ったから、参加できないとかよく聞く事ではありますが、継続して活動続ける為には、自分たちの奢りは捨てなければなりません。

誰でもが参加できる、地域の防犯力の育成に力を出したいと思う同士を、一人でも多く集めることが必要です。全ての人にリーダーを経験させてそれぞれの能力を高めていくことが必要であります。

子どもたちを犯罪から守るために

まず、子どもたちに防犯知識として教えることは、『あ』『あ』『あ』の法則を思い出させる。

『あ』あわてず、『あ』あせらず、『あ』頭を使うことです。例えば、「店に入って店員さんに助けを求めろ。」「何か自分で考えて行動する。」「自分の安全を確かめる。」ことです。

終わりに

2002年まで7年連続して戦後最多を更新していた刑法犯の認知件数は、2003年以降減少傾向にあります。2008年も前年に比べてマイナス6.5パーセントとなっていますが、依然として安全安心を実感することすなわち「体感治安」は厳しい状態です。途切れることなく報道される事件・事故の数々に市民は不安を募らせています。身近な者による犯行や事件が増加しているように感じられ、防犯対策をしてはいても不安は尽きず、危機感をもつ人が増えているのではないのでしょうか。

報道やインターネットによる情報量が増え、各自がもつ事件情報が蓄積されて、「またか」といった失望感、防犯対策が及ばないことへの無力感、いつわが身に起こるとも知れない不安感などが、確実に安全な社会が遠く感じられる理由だと思われます。家族や身内、近隣住民などによる放火、殺人事件などは、誰にとっても起こりうる被害として他人事とは思えない側面があります。物や金が奪われる犯行には対策の取りようもありますが、人間関係や心理的要素の複雑さがまねく犯行には、予測もつかず、防止対策に具体的な答えはありません。

「思いやり」や「お互い様の精神」「協力しあう」など、人とのつながりが安全な社会、共存共栄の基盤であるにもかかわらず、自己中心的で狭量な世界観しかもてない、社会的に成熟していない人が増えていることが問題です。安全は黙って何もしないままでは手に入りません。

身近な犯罪の発生を防ぐために、子どもの頃からの安全教育、地域社会のあり方を模索している現代は成長の途上にあります。真に安全な社会をめざすためには、一人ひとりが自己の安全を確実にすることから始めなくてはなりません。学校教育だけでなく、家族や地域社会の協力と努力は今後も期待するしかありません。積極的に取り組む地域では、防犯パトロールなどにより確実に犯罪発生件数が減少していることが現れています。



地域の人々と対話することを旨として、その日の活動を反省し、次の活動に活かすことが地域の安全につながれば自主防犯活動の意義が生まれてくると思います。各地域が抱える問題点は必ずしも同じではありませんが、それぞれの地域に応じた活動が展開されれば、地域住民の連帯感が培われ、安全と安心感は高まります。

私自身も岡山ガーディアンズで、23名のスタッフと共に行動しておりますが、意識の高いスタッフに囲まれて、同じ行動をすることを12年間続けてこれたということは、私の力ではありません。スタッフが押し上げてくれて、継続することが出来たと思います。「継続は力」とよく言われますが、20年に向けてこれからも進んで行こうと思っております。今後は自分たちの得てきた能力・ノウハウをためて行く事によって、蓄積は宝となりうるべく行動をしたいと思っております。

この「防犯ボランティアフォーラム 2009」において発表させていただいたことにより、岡山県内の各団体の代表をさせて頂きまして、今後も一生懸命防犯活動に従事して参りたいと思っております。本日はありがとうございました。

質問 スライドの中で、ポストアップとの話が出ましたがもう一度教えて下さい。

回答 ポストアップとは、自分たちの存在感を示すことでもあり、また、通行人の妨げにならないように、まず一人でしたら自分の周り360度を見ないと駄目ですね。2人だったら180度ずつで出来ます。(壇上で見本を示す)自分は前だけを警戒しておけばいい。3名だと120度ずつ。こういった定義を、我々はポストアップという形で位置付けております。

司会 最近子供たちが切れやすいなどと言われていますが、これまでなにかトラブルはありましたでしょうか？

回答 12年間やってきて、子どもたちや一般の方々とトラブルはありません。

泥酔者が、乗車拒否をされたと言う事で、タクシーを蹴飛ばしたとかで仲裁に入ることにはありましたが、やはり会話に飢えた子どもたちがとにかく「おまえどこから来たんだ？お父さん・お母さんは」と尋ねると子どもは、貝殻の様に口を閉じますので、会話を引き出すようにすればどんどんよくしゃべってくれますし、我々と青少年達とは、合言葉が出来ています。「来た時よりも美しく」と答えてくれる青少年が増えております。